

令和5年度第2回佐用町総合教育会議 会議録

◎日時 令和5年12月22日(金) 午後3時00分開会

◎場所 佐用町役場3階 301会議室

◎出席者

佐用町	町長	庵邊 典章
	総務課長	幸田 和彦
	健康福祉課長	木村 昌子
佐用町教育委員会	教育長	浅野 博之
	教育委員	岡本 正
	教育委員	花尾 睦明
	教育委員	檜本明日香
	教育委員	鎌本智恵美
	教育課長	宇多 雅弘
	生涯学習課長	高見 浩樹
	教育課企画総務室長	間嶋 節夫
	教育課教育推進室長	西川 典男
	教育課西はりま天文台公園長	船曳 英司
	教育課学校給食センター所長	高橋 真弓
	生涯学習課生涯学習推進室長	吉田 美恵
	生涯学習課生涯学習推進室室長補佐	鞍田 誠

◎会議日程

1. 開会
2. あいさつ
3. 協議・調整事項
 - (1) 佐用町生涯学習推進計画の実践について
 - (2) その他
4. 閉会

1. 開 会

生涯学習課長

ただ今から、令和5年度第2回佐用町総合教育会議を開催します。

2. あいさつ

生涯学習課長

町 長

はじめに、庵途町長からごあいさつを申し上げます。

今年も残すところあと1週間ばかりとなりました。また、厳しい寒さもやって来ております。本日は教育委員会に引き続きご出席ありがとうございます。今日は学校も終業式ということで、2学期も終了しました。令和5年度は3月まで、3学期が残っていますけれども、今年コロナもようやく5類に移行して、学校行事もコロナ前に戻り以前のように実施されていることであろうと思います。5類になったと言っても、次々と感染者も出て、以前はコロナの流行で少なかったインフルエンザも猛威を振るっています。学校も学級閉鎖があり、行事に影響がありました。しかし、全体に広がっていくという感じでもなく、今年は比較的平穏にやってこれてありがたく思っています。

今日は学校だけの問題でなく、教育委員会が所管している生涯学習や社会教育について、佐用町生涯学習推進計画に御意見をいただければと思っています。子どもからお年寄りまで、いろんなことに挑戦し、学び、豊かな生活を送れるような、そのための計画となっていますので、よろしくお願いします。

今年度も残りあとわずかですが、寒くなってきますので、お体には十分ご留意いただき、引き続きよろしくお願いします。

生涯学習課長

教 育 長

続きまして浅野教育長、ごあいさつをお願いします。

小中学校は終業式で若干欠席もありましたが、例年と変わらない出席率で開催できました。2学期が終わり、冬休みに入りますが、今年は曜日の関係で長い冬休みになっています。子どもも教員もゆっくりしてくれたらいいと思います。しかし、業務改善には取り組んでいます。部活動もあったり、なかなかゆっくりすることはできません。子どものためにも鋭気を養ってもらいたいと思います。

小学校の芸術鑑賞会では、ステージに上がって歌いたい人を演者が児童に求めたところ、積極的に手が挙がっていました。昔と違って最近の子どもは物おじしないところが素晴らしいなと思いました。学校教育だけでなく、生涯学習を通じてそういう姿勢が育てられたらいいなと感じています。今日はいろいろなご意見を頂けたらと思いますので、よろしくお願いします。

3. 協議・調整事項

生涯学習課長

続いて、日程3、協議・調整事項に入ります。

本日のテーマは、「佐用町生涯学習推進計画の実践について」です。以降の進行は慣例により教育長をお願いします。

教 育 長

それでは、事務局から「佐用町生涯学習推進計画の実践について」の説明をお願いします。

- 生涯学習課長 佐用町生涯学習推進計画の実践について説明します。説明は生涯学習課室長補佐からします。
- 生涯学習課室長補佐 (別添資料「佐用町生涯学習推進計画の実践について~青少年期における社会教育~」と「第2期佐用町生涯学習推進計画(令和3年度~令和7年度)」により、生涯学習課鞍田室長補佐から説明。)
・水生生物調査、給食センター体験、上月陶芸教室、Fun Fun イングリッシュ、三日月陶芸教室、レクリエーションスポーツ体験、電子工作、センサーライトづくり、打楽器づくり、プログラミング教室、令和5年度参加者数、さよう文化祭への出演、小学生芸術鑑賞会、スポーツ教室、生涯学習推進計画における青少年期の位置づけ、第2期生涯学習推進計画の基本理念、人権学習への参加などについて説明
- 教 育 長 佐用町生涯学習推進計画の実践について、特に青少年期における社会教育について説明しましたが、ご質問や感想などがあればお願いします。
- 教 育 委 員 子ども体験クラブの参加人数は実質どのくらいですか。私が保護者の時は同じ子どもがいつも参加していて、参加しない子どもはいつも参加しない傾向にあったと思います。また、会場によっては保護者の送迎が必要であり、子ども一人で参加しにくい状況であったと思います。全体の子どもの中でどの程度の参加率だったのか教えてください。
- 生涯学習課長 回答できる数字は持ち合わせていませんが、今年度から募集に際してQRコードを利用できるようになり、以前より早い段階で定員に達するようになりました。来庁などの申し込みの手間が減ったところにより、幅広い参加があったのではないかなと思います。
- 町 長 参加する子どもは様々なところに興味を示す、参加しない子は参加しないという問題点についてはどう考えていますか。
- 生涯学習推進室長 QRコードの対策により申し込みやすくなったことにより、同じ子どもが参加するのではなく、比較的ばらけていました。
- 生涯学習課室長補佐 感覚的には、8割くらいは重複していたように思います。
- 教 育 委 員 分かりました。重複するのは悪いことではないと思います。
- 生涯学習推進室長 子ども体験クラブでは、IDECや長谷のファボラボ、そのほかの事業では元地域おこし協力隊のメンバーや高年大学の陶芸部など、地域にゆかりのある団体が指導しており、地域に支えられての事業となっています。
- 町 長 夏休みを中心にやっている講座や教室、イベントは生涯学習課だけで実施していますか。
- 生涯学習課長 夏休みだけには限っていませんが、生涯学習課の事業として実施しています。この後、スプリング8や天文台と一緒にする事業も計画しています。
- 町 長 給食やいろいろな施設など子どもに体験してほしいことはいろいろありますが、教育委員会は教育課と生涯学習課があるので、教育課や学校との連携はとっていますか。
- 生涯学習推進室長 給食センターの体験は給食センターと連携を取っています。イングリッシュシャワーはALTとの調整があるので、教育課と連携を取り、電子工作の教室は先ほどのIDECにお願いするため、企画防災課と連携を取っています。また、料理教室は健康福祉課と連携を取るなど、すこしでも幅が広がるように共同開

催できるところは他の課と協力しています。

町 長 学校の教育以外に幅を広げるように連携しているとは思いますが、学校の先生とは連携していますか。

学校給食センター所長 給食センター関係の事業では、栄養指導の教諭と連携し、学校での栄養指導と照らし合わせながら実施しました。

町 長 様々な事業に参加しているようであり、QRコードによる募集など工夫もしているようですが、学校の先生からも事業のことを伝えて子どもに参加を促すようなことはやっていますか。

生涯学習推進室長 校長会で依頼しています。

町 長 校長から各学年の先生に指示し、参加促進はされていますか。

教育推進室長 校長会で伝え、それぞれの学校で各教諭におろしています。

町 長 それにしては参加が少ないように思います。町内の小学生みんなが集まって活動していくということは児童数が少なくなっている今、重要なことであると思います。各学校だけでは十分な社会活動ができないので、毎日は無理ですが、このような幅広いことをみんなが集まってきて体験するというのは効果があると思います。例えば子ども会が開催している駅伝ですが、極端に参加者が少なくなっています。計画を作ると同時にもっとみんなが参加することを学校も一緒に考えていかなければならないと思います。子ども会というあれたけの組織が保護者も頑張っているのに、今年は混合の部だけになり、参加人数も100人を切ってきた状況です。多くのボランティアの皆さんが関わっている中、せめて全児童の半分くらいは参加するような大会にしていく議論をしなければいけないと思います。

生涯学習推進室長 農林振興課で山仕事体験という事業があり、大人と一緒に児童が参加しています。

町 長 子どもたちは山へ行くことが少なくなった。いい経験ができ、地域資源もある。計画は本当に良い。しかし、そこへ参加しなければ意味がないです。

教育 長 保護者も変わっていかなければいけないですね。学校もタイムを計ってチームを作っているけれども、チームができずにオープン参加で2、3名が走っている状況です。子どもが嫌という、親もそのままにしているようです。何とか参加させようとする「もう一押し」がないですね。生涯学習課もよく頑張っているとは思いますが、親が協力してくれるようにもっていかなければいけないと思います。

町 長 もう一つ、生涯教育は幼児教育から始まります。家庭での基礎的な幼児教育が重要です。ただ、今は8か月くらいから子どもを保育園で預かるような状況があります。保育園ではすべての幼児教育を担えるわけではありません。家庭教育が大事なんですが、今の若い人たちは子どもに関わる時間が少なくなっているから、保育園の教育が大事になってくる。テレビでも著名人が言っていました、「5歳くらいまでに、自分一人のことを考えず、みんなのことを考えて、分け与える。そういう基本的なことができたら教育の7割が完成したものだ。」そういう幼児教育の重要性があります。保育園と小学校、社会教育の連携が大事だということです。そのことが生涯学習計画に入っていますか。

教育委員 幼児に関しては佐用町は頑張っていると思います。ママプラザは子育ての助

けになったし、教育とまでいかないかもしれませんが、町の支援は充実しています。町の支援体制は充実していますが、保護者のほうに問題があると思います。参加するという意識が低下していると思います。生涯学習課の事業もよく考えられ、毎年改善して、町は頑張っていて働きかけているのに、子どもが参加できるかどうかは保護者にかかっています。そして今回 QR コードを導入したことにより、参加者が増えたということもあります。他市町でもそうですが、保護者への働きかけをどのように持っていくのが難しいところで、子どもだけでは動けないですね。町は本当によくやってくれていると思います。

町 長 ありがとうございます。そこが一番の問題点なのですね。以前は子どもの活動には必ず親が協力するということがありましたが、今は違う、そこをどうするかということですね。ママプラザも施設を作って指導員もおいて、あれだけやっているのに何故来てくれないのか。親が関心がないからだけでは済ませられず、ではどうしたら関心を持ってもらえるのか。待っていて、「どうぞ参加してください」ではだめなんだと思います。ではどう改善していくのか。そこに力を入れなければいけないと思います。

教 育 長 申込の方法、それは一つの良い案ですね、何か他か工夫できることがあればいいですね。

生涯学習課長 時代に則したものを取り入れていきたいと思っています。例えば LINE に登録していただくと、もっと保護者も見られる機会が増えるのではないかなと思っています。コロナの予防接種の時に高齢者を中心に LINE に登録していただいて、見ていただく機会が増えました。それに伴い、町の行事も見ていただくようになってきたので、子どものことに関しても活用していきたいと思っています。LINE 登録していただくことは生涯学習課だけではできないので、情報政策課とも連携して積極的に進めていきたいと思っています。

企画総務室長 昨年度、デジタル田園都市国家構想の補助金により「まなびポケット」というアプリを保護者のスマホに搭載し、学校からの連絡を送ることができるように整備しました。従来紙で配布していた時より、即時に、多くの情報を送れるようになりました。こういうようなものも活用できると思います。

教 育 長 生活様式が変わってきているので、若い世代に届くように工夫が必要になってきます。新聞は取らない、固定電話は設置しない家庭が増えています。保護者にとっての一番の情報入手手段はスマホだと思います。

教 育 委 員 さようチャンネルはどのような年代が多く見ているのでしょうか。先日、孫が給食センター体験に出っていたので、夫婦でじっくり見ましたが、ああいうものをもっと活用できないでしょうか。ただ子どもの保護者の世代は、さようチャンネルを見ていないように思います。難しいですが、もっと生涯学習課の事業なども含め、町の事業を放映したらいいと思います。そして、子どもには学校で昨年度の事業を給食の時間などに見せると、「子ども同士の間で行ってみたい」という雰囲気が高まり、家庭で親や祖父母もさようチャンネルを観たり、親も行事に参加させたりするのではないかと思います。活字だけでなく、映像も含めて働きかけるといいと思います。

生涯学習課長 さようチャンネルでは文字放送では流れていますが、おっしゃる通りインパクトが弱い気がします。今年度は体力テストの事業の時は募集動画を放映しま

した。静止画でも伝わると思いますが、このようなことがもっとできるように検討して行きたいと思えます。

町長 学校活動にも参加しない保護者も多いと思えますが、それでも子どものことには関心が深いと思えます。学校の中での教育はしっかりやっているけれども、それだけじゃない。親も参加し、友達と一緒に学校以外の行事に参加するということが大事だということを、保護者が集まる機会に訴えないといけないと思えます。子どもにとって大事なんだということになれば、それじゃ参加させようかということになると思えます。得てして、学校の成績に関心が向いてしましますが、「学校の中だけの教育ではないんですよと、学校の中での教育はしっかりやっていますが、子どもたちがこれから社会に出ていくときに向けてこのような活動に参加することによって、幅広い人間に成長していくんですよ。」ということをお学校のほうから保護者に伝えて欲しいと思えます。子ども同士の社会性を身に付けさせるところは、少子化の中、少なくなってきました。幼児教育や保健師の活動とも合わせてそういうことを伝えて欲しいと思えます。親の教育をしていくことが大事だと思えます。今でも考えている人は考えていると思えます。でもそれがだんだん少なくなってきました。

教育委員 参加した人は良かったと思うのですが、参加しない人に「参加してよかった。」と思える方法を探るのが大事だと思えます。子どもが「行きたい。」「参加してよかった。」とほかの親や子どもが言っていて、「うちの子も行かせたらよかった。」「また、ないかな。」と思うようにするのがいいと思えます。

行事に参加した子どもの反応はどうですか。

生涯学習推進室長 子どもの反応はいいですね。

教育委員 その反応はどのように伝えていきますか。

生涯学習推進室長 その子は「来年も来る。」「去年良かったから今年も来た」と言っています。

教育委員 他の子どもにどのように伝えていきますか。

生涯学習推進室長 仲良しの子ども同士では伝わっています。

教育委員 みんなが仲良しだったらいいのですが。

生涯学習推進室長 「今日楽しかったことを、おうちの人に話してね。」ということは大事だと思えます。これから参加者には言ってみようと思えます。

教育長 (生涯学習課行事について)、今の子どもはテレビ(さようチャンネル)よりもユーチューブを見るほうが多いのですが、ユーチューブで流すわけにもいかないですしね。

教育委員 先ほどのプレゼンの中で「佐用町は恵まれている」と言われていましたが、実際の町民は地理的なことを優先に考え不便だと思っています。また、役場の職員はいいところが分かっているが、それが町民に浸透していないということがあると思えます。町民は他市町と比べるすべがないので、本当に恵まれているかどうか分からない。それを分かってもらうのは難しいことです。

「佐用町に住み続けたいという子どもたちを育てたい」とありましたが、若者が出て行き、帰ってこない。子どものころから「佐用は好きじゃない、佐用には住みたくない」といっていた同級生がいましたが、周囲と仲良くできていなかったと思えます。帰ってくるができる状況になったときに、佐用での楽しい経験があれば、帰ってくるのではないのでしょうか。まず大事なものは「佐用町に住

みたい」という子を育てることだと思います。ではどうしたらいいのかということになると難しいのですが…。

生涯学習課長 自然が豊かであるということが財産だと思います。それがなかなか伝わりにくいです。

教育委員 ここに住んでいると感じないんです。

生涯学習課長 山もあり、川もあり、川の行事は人気があります。自然に親しめるような行事に積極的に取り組んでいこうと思います。それが大人になって思い出してもらえるようにしたいと思います。

町長 若い保護者の話を聞いて恐ろしいなと思ったことがあるのですが、佐用町は子育て環境が充実していて支援もある。でも中学生になると教育のことを考えて都市部へ行きたいと考えているとのこと。昔は就職したらずっとそこへいるというのが普通でしたが、今は転職するのが当たり前という雰囲気があります。自分たちの生活スタイルに合わせて、住むところは固定しない。自由に変わりたいと思っている人が多いようです。子どももやりたいことがいっぱいあるし、親も子どもの希望するところに行かせてやりたい。そうすると、佐用では選択肢がない。でも子どもが幼児期の時は環境が充実しているからいいと言う。それが終わったら転居したほうが便利ということになる。町が政策として一生懸命育てていって、最後は出てしまう。これではいけません。地域はこれから誰が支えていくのでしょうか、全体の人口が減っていくのはしょうがありませんが、それ以上に、そんな考え方で町を離れていくというのは問題があります。保育園の保護者の中でそういう話が出ていることには危機感があります。

教育長 確かにあります。終身雇用の意識はないし、ここに住み続けるという意識もない。すぐに住む場所を変える。

教育委員 育った子どもがまた、子育てに戻って来ないですかね。「子育てするなら佐用町」で、子どもが中学生までは確実に佐用町にいるから、その周期が合えばいいと思います。育って、都市に出て、また、子育てに帰ってくる。そうすると常に若い人がいることになるので、問題は戻ってくるかどうかになります。外に出ていった人が子育てをしに帰ってくれるだけでもいいのではないのでしょうか。

教育委員 子どもが小さな時から言って聞かさないとかだめということですね。私の兄弟の中で男一人だったので、私は帰ってくることが当然だと思っていたし、別の仕事をしようと思ったこともありませんでした。でもそれを自分の子どもには言っていないませんでした。言わなければいけなかったのかなと思っています。

町長 都市部でさえ人手不足の状況の中、住んでしまえば都市部が良くなって生活ができてしまう。

佐用町も職員の募集でも、内定を出しても辞退が多い。いろんなところを受験している中で佐用町の優先順位は低い。技術職は周辺市町で取り合いです。本当に深刻な問題です。行政組織そのものが成り立つのか心配です。

教育長 先行きが心配です。

町長 だから教育が大事ということですね。

教育長 学校教育だけでなく、家庭教育や社会教育をはじめ様々な教育ですね。横の連携を取り、住みたいという佐用町にしていきたいです。

町長 住みやすいとは言ってもらえるんですよ。適当に都市部から離れ、交通の便

教 育 長

もそこそこある。少なくとも高校くらいまでは佐用町で暮らしてほしいですね。
ほかにありませんか。なければ(2)その他に移りますが、ありますか。
ないようですので、これをもちまして第2回総合教育会議を終わります。
長時間にわたり、ありがとうございました。

4. 閉 会

生涯学習課長

次回は6月に開催します。